

- 1 審議会名 上田市消防委員会(平成26年度 第1回会議)
- 2 日時 平成26年7月24日 午後2時00分から午後4時00分まで
- 3 会場 上田市丸子ふれあいステーション 3階会議室
- 4 出席者 宮島会長、田中副会長、青木委員、大谷委員、近藤委員、小山淳子委員、
茂田委員、滝澤委員、鷹野委員、山極委員、小宮山委員、三井委員、矢島委員
- 5 市側出席者 中島消防部長、土屋消防総務課長、長谷川中央消防課長、宮島消防予防課長
松井消防警防課長、田中南部消防課長、手塚東北消防課長、北澤川西消防課長
柳沢真田消防課長、丸山総務担当係長、高橋総務担当係長
(その他の出席者)上田市消防団 矢島団長
- 6 公開・非公開等の別 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
- 7 傍聴者 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成26年7月31日

協議事項等

- 1 開 会(土屋消防総務課長)
- 2 あいさつ(宮島会長)
- 3 自己紹介
- 4 協議事項
(議事進行:宮島会長)
- 【議題の概要】
- (1) 上田市消防団の概況について
- ア 上田市消防団の紹介(矢島消防団長)(資料1)
- 上田市消防団の組織について概要説明
- ・平成22年4月4日から現在の1本部8方面隊29個分団体制となっている。
 - ・女性消防隊ペナテス、救護隊、バイク隊、音楽隊、ラッパ隊が組織されている。
- ポンプ操法並びにラッパ吹奏における上小大会結果と県大会出場について報告
- イ 上田市消防団の現況(丸山総務担当係長)(資料2)
- 現在の団本部及び分団の実員数、女性団員数、充足率、車両配備状況について説明
- ・現在、人員2,231人、うち女性85人、充足率98.3%、団車両129台
- 入退団者の推移、団員数の推移、市職員加入状況の推移について説明
- ・入団者数、退団者数ともに年々減少傾向、団員数も年々減少傾向、市職員加入率は微増傾向となっている。
- 【審議概要】
- (委員の質問)
- ・入団者が年々減少している状況の要因は何か。
- (事務局)
- ・入団者の減少の要因として、若年人口の減少、特に入団に当たったの適齢人口である20歳代の人口の急激な減少があげられる。
- (委員の質問)
- ・退団者の多い年齢層と退団理由は何か。

(事務局)

- ・ 分団長を数年経験して退団される方も多く、年齢的には35歳から40歳で退団する団員が多い。なお、上田市の団員年齢構成は、全国あるいは県内他市に比較して30歳代の団員が非常に多く、40歳代が少ないのも特徴である。若年者の退団理由については、個人的な理由であると思われるが現在把握していない。

(委員の意見)

《団員確保の現状からの意見》

- ・ 新たな団員加入が少ない現状を危惧している。
- ・ 1年でも2年でも長く消防団活動に貢献してもらうために、「魅力ある消防団」をどうしたら築けるかということを検討してもらいたい。
- ・ 退団者数の推移から、今まで10年ほどの勤続で退団していたものが、それが倍努めなければ退団できないという状況になってきているのだと思う。それは、とりもなおさず、新しい人が入ってこないで、やめられないというのが現状だろうと考える。
- ・ どの分団も定数を確保しようということで、入団した人数しか退団しないということを繰り返してきて、徐々に入団する人が減ってきているので、やめる人も減ってきているという現状は、このままいくと、またどこかで充足率が下回ってくる時期が来て、また定数を見直さなければいけない。そういうことを繰り返さないようにするには、やはり若い皆さんに入団してもらうことが一番だろうと考えるが、その良い方策が見当たらない。
- ・ 少子高齢化でどんどん若年者が減っていることから、魅力ある消防団をつかって、長くやっていただくことが一番良いことだと思うが、一人当たりの負担を増やしていくと、それなりに、その後に反動が来てしまうのではないかと懸念される。

《今後の解決策としての意見》

- ・ 自主防災組織というのも消防経験者に入ってもらえると非常に活動がうまくいくだろうと考える。消防団を退団して何年も経ってから自主防災組織に入る方もいるが、実際に火災の消火活動をしたり、災害に向かっていくというのではなくて、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自助、共助という面で行っていく。そういったことも含めた上で、「魅力ある消防団」を考えていくことも必要である。
- ・ 消防団に入るにあたってのメリットについては、平成25年1月の「団員定数等に関する答申」の付帯意見として、団員の処遇改善等をお願いしてあると思う。市の方で、さらに処遇改善をしていただく方法を考えていただきたい。
- ・ 以上を踏まえ、「魅力ある消防団とは」ということを考える良い機会となっているので、今後委員会の中で検討していきたい。

(委員からの要望)

《次回の会議に向けての要望》

団員確保

- ・ 全国的に見て、団員確保について、目新しい方法で効果を上げている自治体、方法があったら次回に資料を提供してもらいたい。

団員数の補完的役割

- ・ 少子化による団員数の減少は仕方ないとして、これを補完する役割、例えば自主防災組織のような、効果を上げている先進的な自治体、方策があれば資料を提供していただきたい。

(事務局)

- ・ 、 について事務局で情報を集めて、次回に資料を提供してまいります。

【議題の概要】

(2) 消防団拠点施設の整備について(丸山総務担当係長)

ア 拠点施設整備の経過について(資料3)

消防団拠点施設整備の背景、整備方針について説明

・ 詰所は合併前、旧上田市においては分団を単位とし、旧3町村においては部、班を単位として設置してきたことから、消防団組織の見直し後に、旧上田市に合せ分団単位に詰所等を公費により整備することとした。(背景)

・ 各分団に1箇所の詰所・車庫を公費で整備し、分団の活動拠点及び地域防災の拠点施設とすることにより、消防団施設の整備状況の格差を是正し、新市の各地域における防災対策水準の均衡を図る。(整備方針)

拠点施設の整備実績、今後の整備計画について説明

・ 平成21年度から整備を実施し、現在9施設を整備済、平成27年度には計画した14拠点施設全て完了する予定である。

女性団員に配慮した分団詰所の整備について説明

・ 平成20年度から女性トイレの整備を実施し、現在8箇所整備済、今年度1箇所を整備することにより、女性団員の在籍する全ての詰所に整備されることになる。

イ 丸子第3分団詰所の概要について(資料4)

整備してきた消防団拠点施設を、会議後に委員の皆様に見察していただくことから、会議会場から至近距離にあり、今回の視察場所でもある丸子第3分団詰所の概要について説明

・ 平成23年度建設 ・ 工事費 29,169千円

・ 鉄骨造2階建て 114.5㎡ (1階車庫 60.8㎡・2階詰所 53.7㎡)

・ 消防ポンプ自動車(平成25年度更新) ・ 女性更衣室及び女性用トイレ有

【議題の概要】

(3) 『消防本部庁舎工事中』に伴う、上田中央消防署の車両配置場所の変更

並びに出動体制について(長谷川中央消防課長)(資料5)

本工事に伴い、消防本部の車庫についても南北に分割して工事が行われるため、配置ができない消防車両を広域消防署へ分散して配置し、臨時的な出動体制をとって対応している。

・ 35m級はしご車(上田東北消防署に配置変更)

・ 高規格救急自動車2号車(上田南部消防署に配置変更)

・ 資機材搬送車(真田消防署に配置変更)

工事中であれ、出動に遅延があってはならないという原則に基づき、最速となり得る出動体制を導入して現在対応している。

5 その他

(1) 消防団員の処遇の改善について

(委員の質問)

・ 国から消防団員の処遇改善ということで、1人当たり報酬 36,500円、出動1回 7,000円が支給されているとのことであるが、上田市ではどうなっているか。

(事務局)

・ それらの金額は、地方交付税交付金の算出根拠となっている金額であり、交付されているのは、地方交付税交付金である。地方交付税は使いみちが限られておらず、何にどれだけ使うかは自治体独自の判断で広くどんな目的にも使うことができます。

(2) 消防団員の出勤時の服装について

(委員の質問)

- ・ 消防団員の災害出勤時の服装について、是非、活動服を着て出勤しなければならないのか。自宅に戻って着替えて出勤となると、時間のロスになるのではないか。ヘルメットだけでも良いのではないか。

(団長)

- ・ まずは、自分自身の身を守るという意味で、活動服やヘルメット等の着用をお願いしている。

(3) 事務局からのお知らせ

(事務局)

- ・ 長野県消防ポンプ操法大会及びラッパ吹奏大会について
7月27日(日)大町市で開催予定
上田市消防団第8分団、第10分団、ラッパ吹奏選抜チームが出場

6 閉 会 (土屋消防総務課長)

7 視 察

- ・ 上田市消防団丸子第3分団詰所